

# ◎シリーズ 長岡京歴史散歩

(131)

## 長法寺小学校校区の遺跡3

〜八条ケ池の由来〜

長岡京市を代表する名刹の一つである長岡天満宮。その天満宮の顔ともいえる八条ケ池は、春になると市の花にも指定されているキリシマツツジが咲き誇り、多くの人を楽しませてくれます。

この「八条ケ池」の名前の由来をご存じでしょうか。長岡京の条坊に關係した名前？ 残念ながら違います。JR長岡京駅から、天満宮の表玄関である石段に続く道路は、長岡京の条坊では五条大路と六条大路との間の道にほぼ一致しています



▲ 東から長岡天満宮（八条ケ池）を望む

ので、ここは長岡京の「八条」とは無関係です。では名前の由来は何なのでしょう。

長岡天満宮は、菅原道真を彼の一族が祭った御廟びよが起源とされていますが、中世のころには「開田天満天神」と呼ばれ、場所も今の所よりさらに東、当地の国人である中小路氏の居館・開田城の西隣りにあったとされています。「開田天満天神」は文字通り開田集落の鎮守として中小路氏が祭っていたのでしょう。

これが江戸時代に入ると、当地一帯が八条宮家の領地になります。

八条宮家とは、後陽成天皇の弟で、豊臣秀吉の養子ともなった智仁親王とものひとを初代とする宮家で、二代・智忠親王とまただとともに桂離宮を造営したことで知られています。

この八条宮家が天神山（今の長岡天満宮境内）に別荘を造り、「開田天満天神」もここに移したといわれています。寛永年間にはため池や堀を開削し、境内を整備したようです。この時掘られたため池は、当時「大池」と呼ばれ、灌漑用水かんがいとしても活用されていました。この「大池」が明治時代以後になって「八条ケ池」と呼ばれるようになったのです。キリシマツツジが移植されたのもこのころからと伝えられます。

このように「八条ケ池」という名称は、池を造った八条宮家にちなんだ後世の呼称なのです。

ちなみに当初「開田天満天神」と呼ばれていたのが現在の「長岡天満宮」と呼ばれるようになったのは、江戸時代中ごろ以降のことです。